

場所：4号館 202 講義室

特別講演

演題

教育データの利活用とエビデンスに基づく教育の実現にむけて

講師：京都大学 学術情報メディアセンター 教授
緒方 広明 先生
(おがた ひろあき)

〔講師紹介〕

京都大学・学術情報メディアセンター・学術データアナリティクス分野・教授。同大学・大学院情報学研究科・社会情報学専攻併任。教育データ科学、学習分析(ラーニング・アナリティクス)、エビデンスに基づく教育のための情報基盤システムなどの研究に従事。現在、科研費基盤研究(S)「教育ビッグデータを用いた教育・学習支援のためのクラウド情報基盤の研究」及び、内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術：エビデンスに基づいたテーラーメイド教育の研究」を推進。論文誌 IEEE Transaction on Learning Technologies 等の副編集委員長。国際学会 SOLAR(Society of Learning Analytics and Research)等の学会役員を歴任。日本学術会議連携会員。



【講演要旨】

これまで大学教育に係るデータとしては授業評価アンケートや成績評価等を通して得られたデータが中心でした。近年の ICT の急速な進化を背景に、Moodle 等の学習管理システムや e ポートフォリオシステムなどを利用して、大学で展開される教育・学習活動に関して大量かつ多様なデータが収集可能になっています。例えば、パワーポイントなどを用いたデジタル教材やオンラインテストのログ情報を駆使して学習者の進捗や理解度が見える化し、それを授業改善や学習支援に活用することができます。

本講演では、大学だけに留まらず、小学校から大学までの教育ビッグデータをどのように収集し、分析・活用することによって、どのようなことが可能になるか、教育データ科学の最新の研究動向と、今後の展開について話します。